

## 訂正表

『能率の考え方と本学での学び』テキストに下記の誤りや誤解を招く表現がございましたので、訂正してお詫び申し上げます。

| No | ページ・行                                    | 【誤】  | 【正】  |
|----|--|--|--|
| 1  | p.129 (2) 4～5行目                          | どこにいても学習活動を続けることができる   | 受講に適したあらゆる場所であればどこにいても、の意です。<br>特にスクーリングの受講、科目修得試験の受験については他に人がいない、安定して学習できる状況で行ってください。<br>カフェや移動中などのスクーリング受講・科目修得試験受験は認めません。 |
| 2  | p.133 ① 7行目                              | Web式レポートについては、科目によって問題用紙が挟まっているものもありますが、...                    | 現在Web式レポートは、すべての科目がiNetCampus上で問題の閲覧・解答が可能です。  |
| 3  | p.133 ① 11行目<br>p.181 2行目                | 回答   | 解答   |
| 4  | p.133 ① 17行目                             | 24時間365日   | 一日中iNetCampusにログインができないメンテナンス日もありますのでご了承ください。  |
| 5  | p.135～137、p.196、<br>p.202                | 対面スクーリング、ライブ形式のスクーリング  | 本学では対面形式のスクーリングは「通学スクーリング」、ライブ形式のスクーリングは「オンラインスクーリング」という名称で呼んでいます。   |
| 6  | p.135 ② 7行目                              | スクーリングの詳しい受講方法については、iNetCampus に掲載している「スクーリングマニュアル」を確認してください。  | スクーリングの受講についてはiNetCampusにある「スクーリング受講マニュアル」「学習のしおり」、また在学生向けページの「スクーリング」ページに掲載しています。   |
|    | p.202 成果をまとめる                            | 受講方法については、マニュアルを確認してください。                                      |  |
| 6  | p.136 6行目                                | 万が一、申し込んだスクーリングに全ての時間参加できない場合は「欠席届」を提出してください。                  | 万が一、申し込んだスクーリングの全ての時間に参加できない場合は「欠席届」を提出してください。   |
| 7  | p.136 10行目                               | また、途中で回線が不安定となって Zoom が視聴できない場合、中抜けとみなされて単位修得の対象とできないかもしれません。  | また、途中で回線が不安定となって Zoom が視聴できない場合、中抜けとみなされて <b>単位修得の対象にならない場合があります。</b>  |
| 8  | p.137 4～5行目<br>p.142 ①1行目<br>p.143 図中(1) | 開催月、開催   | <b>開講月、開講</b>  |
| 9  | p.136<br>・課題と最終試験                        | オンラインスクーリング・対面スクーリングは1日目が終わった後に「課題」が、2日目が終わった後に「最終試験」が課されますので、 | 対面で実施する通学スクーリングには課題ありません。2日目が終わった後にはオンラインスクーリングと同様「最終試験」が課されます。  |
| 10 | p.137 1行目～2行目                            | 2日間の受講、課題、最終試験、全てに合格すればスクーリング単位が修得できるということになります。               | 2日間の受講、課題、最終試験、 <b>全てを総合的に評価してスクーリングの合否が決まります。</b>   |
| 11 | p.139 ④ 1行目                              | iNetCampus のコース一覧から「学習ガイダンス」と「事務局ガイダンス」を見つけ、視聴してください。          | iNetCampusコース一覧の「事務局ガイダンス」は「学習ガイダンス」に統合することとなりました。「学習ガイダンス」メニューから動画を視聴してください。  |
| 12 | p.139 ⑤ 1行目                              | 科目修得試験を受けるための環境確認として「Web 試験体験版(科目修得試験受験資格獲得テスト)」を提出してください。     | <b>試験形態を実際に体験しながら試験についての注意事項を学ぶことに加え</b> 、科目修得試験を受けるための環境確認として「Web 試験体験版(科目修得試験受験資格獲得テスト)」を提出してください。                         |

|    |                          |  |   |
|----|--------------------------|--|---|
| 13 | p.140 ※単位とは              | 1単位はおよそ15時間の学修時間が必要  | ここには授業外の学習は含まれておりません。予習・復習等を含めて45時間の学修を標準としています。  |
| 14 | p.141 学習のしおり             | やや分量はありますが、  | やや <b>分量</b> はありますが、  |
| 15 | p.142 (4)                | 換算すると1年間で16科目、半年で8科目の学習を終える必要があります。                            | あくまで単位を修得するペースの目安であり、進級要件が設定されているわけではありません。   |
| 16 | p.143 2行目                | 本学の学生は、通学制の大学・短大違い、  | 本学の学生は、通学制の大学・短大 <b>とは</b> 違い、  |
| 17 | p.143 ②                  | 易しそうな科目から取りかかる   | 科目自体の難易度ではなく、ご自身が易しい印象を受けた「取り組みやすそうな科目」と捉えてください。  |
| 18 | p.148 図中                 | 能率の考え方と本学の学び   | 能率の考え方と本学 <b>で</b> の学び  |
| 19 | p.153 最終行                | 「学位を修得したいから」   | 「学位を <b>取得</b> したいから」   |
| 20 | p.171<br>② 4行目・③ 1行目     | 「計画」「実施」「管理」   | 「計画」「 <b>実行</b> 」「管理」   |
| 21 | p.187                    | 科目修得試験ではテキストの該当箇所、スクーリングの課題や最終試験ではテキストに加えて教員の配布資料や自作のノートを確認する。 | ※書かれているとおりですが、誤解を招きかねない表現です。科目修得試験受験時には、テキスト以外の配布資料や自作のノートを参照することはできません(科目によって例外あり)。スクーリングの最終試験では配布資料や自作のノートを確認することができます。 |
| 22 | p.189 (2) 2行目            | 先生と生徒たちが料理を一緒に制作していきます。  | 先生と生徒たちが料理を一緒に <b>作製</b> していきます。  |
| 23 | p.191 ⑥ 2行目<br>p.204 6行目 | 事後学習は強制されるものではないため<br>もちろん事後学習は強制ではありません                       | 事前学習・事後学習を含めての学習ですので、知識の定着のためにも取り組みましょう。  |
| 24 | p.196 Q3                 | 学生さんからの質問を受けた、教員が気づかなかったポイントや他の学生にもポジティブな効果を与えることがたくさんあります。    | 文意が読み取りづらい文章です。<br>「学生から教員に質問をすることで、教員や他の学生が自分の気づいていなかったポイントに気づけるなど、ポジティブな効果を与えることがたくさんあります。」                             |
| 25 | p.199<br>3段落目 1行目        | 特に重要となるのは②と③です。  | 特に重要となるのは <b>bとc</b> です。  |
| 26 | p.200 4行目                | このズレを建設的な方向へ向けていくためには、   | このズレを建設的な方向へ <b>導く</b> ためには、  |
| 27 | p.204 3行目                | その時のガイドラインとして文献一覧や注に注目してみてください。                                | その時のガイドラインとして文献一覧や <b>注釈、脚注</b> などに注目してみてください。  |
| 28 | P.230 索引                 | 「中」→【な】にある<br>「建学の精神」→【た】                                      | 「ちゅう」と読むため本来【た】にあるのが正<br>「けんがくのせいしん」と読むため本来【か】にあるのが正  |